

# ネイティブ／ノンネイティブ教員に求められる資質・能力

— 中国語学科と英米語学科の学生が求められる資質・能力 —

中 川 良 雄  
岡 本 俊 裕  
倉 田 誠

## 〈Summary〉

We have recently observed an array of communication-focused methods, in which the researchers have been devising ways to improve the learners' communicative competence by making active use of native-speaker teachers. We have concurrently observed changes of qualities and abilities required for teachers.

The authors of this paper have examined “qualities and abilities required for teachers of Japanese” and “excellent foreign language classes” from various perspectives.

Here are a few questions that we have come up with along the way.

Are a series of findings that we have so far observed specific to Japanese language education? Would it be possible to discuss these findings under the common concept of “language education,” in lieu of dealing with various issues in different shells such as Japanese language education, English language education, Chinese language education, French language education, and so forth? Or would it be possible to exchange with each other expertise stored in each of the different fields, so that we could utilize the common pedagogical assets for the sake of the betterment of foreign language education in general? Would it be even possible to hammer out qualities and abilities needed for foreign language teachers on the basis of the individuality of each language and the commonality (universality) of foreign language education?

The main purpose of this research is to work out ways to inquire about qualities and abilities that native speaker teachers (NST) / non-native speaker teachers (NNST) are to be equipped with for the sake of developing excellent foreign language classes as well as to search for good ways for NSTs and NNSTs to collaborate and cooperate with each other.

The authors believe that it is possible to conceptualize “excellent foreign language classes” by delving into the linguistic individuality and the pedagogical commonality (universality) via our survey results as to what the teachers' roles are and what qualities and abilities the learners expect of NSTs and NNSTs. If we can find out what the teachers are expected of, then the findings will not only help to facilitate teacher-training but also to improve the necessary qualities and abilities for good teachers.

## はじめに

昨今の言語教育では、従来の文法訳読法やオーディオ・リンガル教授法からコミュニケーション重視の教授法、教師主導型から学習者主体型の教育メソッドへと移行しつつある。またネイティブ教員を積極的に活用し、学習者のコミュニケーション能力を向上させるための工夫もなされつつある。それと同時に、教員に求められる資質や能力も変化してきている。

筆者はこれまでに、科学研究費補助金研究等を通じて、「求められる日本語教員の資質・能力」や「優れた外国語授業」について考察してきた。

ここで次のようなことが疑問として浮かび上がる。

一連の調査研究から得られた知見は、はたして日本語教育に特化したものか。日本語教育、英語教育、中国語教育やフランス語教育といった、それぞれの領域の殻に閉じこもるのではなく、「外国語教育」という共通した概念のもとで議論することはできないか。またそれぞれの領域で蓄積されている知見を交換し、共通財産として「外国語教育」の進展に活かしていくことはできないか。外国語教員として求められる資質や能力は、それぞれの言語の個別性と外国語教育という共通性（一般性）の上で議論することができるのではないか。

この考えに則り、様々な国や地域、言語のもとに調査を展開し、外国語教員（ネイティブ／ノンネイティブ）に求められる資質や能力について考察し、外国語教育に共通する概念が抽出できれば、外国語教育の発展に寄与するばかりか、外国語教員の養成にもつながる。

本稿ではその一環として、京都外国語大学英米語学科と中国語学科の学生がネイティブ／ノンネイティブ教員に求める資質・能力について考察する。

## 1. 優れた外国語授業

### 1.1 Wragg (1970) による「優れた外国語授業」

Wragg, K (1970) 'Interaction Analysis in the Foreign Language Classroom', *The Modern Language Journal* 54.) は、「優れた外国語授業」として、およそ次のようなものを挙げている。

- ・教師も学習者も外国語使用が圧倒的に多い。
- ・初級段階でも母語使用は非常に少ない。
- ・教師の話す量が少ない。
- ・学習者の参加を促し、誉めたり励ましたりすることが多い。
- ・教室内の雰囲気が暖かく、受容的である。
- ・教室内に笑が多い。
- ・学習者は授業参加への意欲を示し、自発的発言が多い。
- ・教師が微笑したり、冗談を言ったりすることが多い。
- ・誤りの訂正をやさしく行う。

しかしこの Wragg (1970) の授業モデルは、どの程度まで外国語授業を一般化したものとなるのか。学習者のニーズや教育観を形成する教室文化に呼応したものとなるのか。

## 1.2 中川 (2010, 2011a 等) による「いい授業」に関する調査

そうした疑問を解くため、中川 (2010, 2011a 等) は、一連の研究で、中国・台湾・香港・韓国・タイ・オーストラリア等、日本語教員及び学習者を対象に、「いい授業」に関するアンケート調査を実施した。

その結果、それぞれの国や地域で、「いい授業」に関する認識 (例：学習者を誉めたり励ましたりすることが多い／学習者を叱ったり注意したりすることが多い、教師は目標言語を用いて説明することが多い／教師は学習者の母語を用いて説明することが多い) が異なっていることが明らかになった。この背景には、教員や学習者がこれまでに培ってきた価値観や人生観が教室文化を形成し、学習ビリーフとなって、言語教育・学習観を形成していることが考えられる。

本研究は、「優れた外国語授業」創出のためのネイティブ／ノンネイティブ教員に求められる資質・能力を問い、両者の連携・協働のあり方を模索することを主目的とするが、学習者の国籍、目標言語、価値観・人生観、背景文化やニーズを抜きにした議論は考えがたい。

そのため本研究では、教員の役割分担やネイティブ／ノンネイティブ教員、そして学習者が期待するもの、教員自身の資質や能力について問うアンケートを基礎資料とする。

学習者の国籍や目標言語、背景文化等によりアンケート結果が異なるであろうことが予想される。そこに研究意義が見出されるが、個別性と共通性 (一般性) を探ることにより、「優れた外国語授業」の概念化が図れるものとする。「期待される教員像」が明らかになれば、教員養成も容易になり、教員の資質・能力の改善・向上にも役立つ。

## 2. 当該分野での先行研究

この方面での研究は、田中里奈 (2013) 「日本語教育における『ネイティブ』／『ノンネイティブ』概念 — 言語学研究および言語教育における関連文献のレビューから —」, 平畑奈美 (2008) 「アジアにおける母語話者日本語教師の新たな役割 — 母語話者性と日本人性の視点から —」, 大藪加奈 (2007) 「英語で教える英語の授業」: 非母語話者教員をとりまく状況分析と理論的枠組み」など、少なからず存在するが、いずれも日本語教育や英語教育、また、中国やベトナムといった個々の集団内の議論にすぎず、外国語教育を一般化・概念化した研究は管見の限りない。外国語教育を一括りとした、外国語教員に関する議論やその養成に関する議論もなされていない。

そこで当研究を次のように位置づけることができる。

・それぞれの言語教育において、ネイティブ／ノンネイティブの連携・協働による「授業実践

報告」や教員の「役割分担」に関する調査研究は、大学紀要や大学紹介冊子、各々の教員の所属学会・研究会等で個別に報告がなされ、外国語教育の参考に供されているが、それらを集大成した、日本語や英語といった枠を超えた超言語的観点からの調査研究はこれまでに存在しない。

- ・外国語教員の養成は、当該言語能力の向上に主眼が置かれ、人間性を含む教員の資質や能力全般に関する研究には目が向けられていない。
- ・教育方法論の改善、新たな教育方法の構築につながる。
- ・外国語大学の使命とする外国語教育の進展に多大に寄与し、外国語教育メソッドの改善と新たな可能性を切り拓く。時代に呼応した外国語教育を探求する。

### 3. ネイティブ／ノンネイティブ教員の利点

当該分野に関する研究は、日本語教育に関するものが比較的盛んである。本研究の目的は、個別性と共通性（一般性）の接点を探ることにあるので、日本語教育研究を例に、ネイティブ／ノンネイティブ教師の利点について少しく考えてみたい。

国際交流基金が実施する日本語教師長期研修の方針の報告書の中で、阿部・横山（1991）は、ノンネイティブ教師の利点として次のように述べている。

- ① 学習者と母語が同じ
  - a 母語による説明ができる
    - 教師による指示や説明がすぐに理解できる
    - いつでも質問できるという安心感を与える
  - b 母語と日本語とを比較対照して分析することができる
- ② 学習者と文化背景が同じ
  - a 学習者のものの考え方がわかる
  - b 興味・関心の対象がわかる
  - c 学習方法（学習スタイル）がわかる
  - d 学習者の相談役に適している
- ③ 学習者としての経験がある
  - a 学習上の困難点がわかり、克服の方法を伝授できる
  - b 学習時の心理的な側面について理解している
  - c 学習者の目標となる⇒学習者への動機付け

石井（1991）も、ノンネイティブ教員の利点について同様の認識を示しつつ、教師が学習者と文化背景が同じであるということは、日本語をまなぶということがその社会でどのような意味をもつかということを含めて学習者個人の学習動機や目的を理解するこ

とができるという利点になり得る。

と加えている。

一方で、ネイティブ教員にはどんな役割が期待されているのか。

平畑（2008）は、「母語話者と共存し、母語話者にパートナーシップを期待するものへと変化しつつある」と指摘し、その上で、日本人教師の新たな役割とは、「母語話者性」と「日本人性」のもたらす葛藤を越え、しかし、その価値は失うことなく、国際社会の一員として、日本と現地とを結び付けていくことであるとしている。

また平畑（2007）では、海外での教授経験のある日本語教師への質問紙調査から、因子分析の結果、望まれる資質を構成する尺度として、「意欲」「人間性」「教育能力」「コーディネート能力」「国際感覚」「日本人性」という6因子が抽出されたとしている。

では学習者の視点からは、どのような教員が望まれるのだろうか。

縫部他（2006）は、7つの国と地域（ニュージーランド、タイ、韓国、中国、ベトナム、台湾、アメリカ）の学習者を対象に、質問紙による「『優れた』日本語教師の行動特性」について調査し、因子分析を行った結果、すべての国に共通して、「日本語教師の専門性」「教師の人間性」「授業の実践能力」「コース運営」「指導経験と資格」という5因子が「『優れた』日本語教師」の枠組みを構成していることが明らかになった。

本章で述べてきたことは、日本語教育・日本語教員に特化した先行研究の紹介ではあったが、ネイティブ／ノンネイティブ教師に求められる資質や能力は、言語を問わず共通した概念として認識することができるであろう。超言語的な一般性に言語それぞれの個性が加わるものと考えよう。

## 4. アンケート調査

### 4.1 アンケート項目の策定

日本人（ノンネイティブ）教員及びネイティブ教員に求められる資質や能力について、それぞれ37項目（前者には3項目追加して40項目）を4件尺度法（4：強く求める，3：求める，2：あまり求めない，1：全く求めない）で問うた。

それぞれの項目の平均値を出していく。

## 4.2 調査協力者

## (1) 中国語学科の学生（222名、2016年度の在籍者）

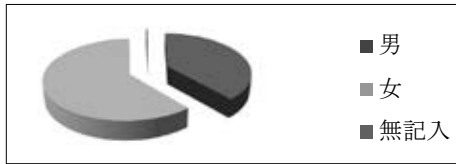


図1 中国語学科 男／女の別



図2 中国語学科 学年の別

## (2) 英米語学科の学生（177名、2016年度の在籍者）



図3 英米語学科の学生 男／女の別

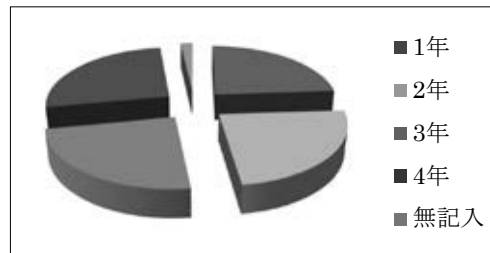


図4 英米語学科の学生 学年の別

## 5. 調査結果

アンケート調査の結果から、中国語学科、英米語学科それぞれのポイント上位項目を挙げてみる（巻末付表参照）。

## 5.1 中国語学科学生が求めるもの

	ノンネイティブ教員に求めるもの	ネイティブ教員に求めるもの
1	正しい発音やアクセントで流暢に話せる	中国の歴史や文化・習慣などについて深い知識
2	学習者の発音上の間違いを適切に直せる	中国人の考え方や思考方法を理解している
3	教室外や課外でも学習者と交わることが多い	授業を楽しくする
4	すべての学習者に公平である	正しい発音やアクセントで流暢に話せる
5	学習者の文法上の間違いを適切に訂正する	中国文化を授業の中で体験させてくれる
6	授業を楽しくする	すべての学習者に公平である
7	教室外でも話しやすく親しみやすさを感じる	学習者の発音上の間違いを適切に直せる
8	学習者だった時の経験を活かして教える	中国語だけで授業をする
9	教室内において学習者に規律を守らせる	学習者の文法上の間違いを適切に訂正する
10	習得が困難なものと容易なことをよく知っている	話すこと・聞くことを中心に教える

中国語学科の学生がノンネイティブ教員に求める資質・能力として、教員が「正しい発音やアクセントで流暢に話せる」ことや「学習者の発音上の間違いを適切に訂正する」が上位に挙がってくる。すなわち中国語の発音は、習得が困難で、適正な指導の必要なことが分かる。

また教室内外で、「話しやすく親しみやすい」ことを求めている。

学習者だった時の経験智を活かして、学習者の「文法上の間違い」や「習得が困難なことと容易なこと」を熟知しているのも、ノンネイティブ教員の利点となろう。

一方でネイティブ教員には、「中国の歴史や文化・習慣などに関する知識を有している」ことはもとより、「話すこと・聞くこと」を中心に、「コミュニケーション重視の授業」を求めている。

## 5.2 英米語学科学生が求めるもの

	ノンネイティブ教員に求めるもの	ネイティブ教員に求めるもの
1	外国語としての英語教授法に精通している	絵教材や視聴覚教材等、様々な教材を多く用いる
2	絵教材や視聴覚教材等、様々な教材を多く用いる	学習者からの質問に即座に答えられる
3	学習者に英語で話すことを促す	外国語としての英語教授法に精通している
4	教科書に沿って文法を重点的に教える	学習者に英語で話すことを促す
5	コミュニケーション重視の練習をたくさん取り入れる	学習者の発音上の間違いを適切に直せる
6	試験（TOEIC など）についての知識が豊富である	学習者の文法上の間違いを適切に訂正する
7	修士またはそれ以上の学位を持っている	教科書に沿って文法を重点的に教える
8	授業を楽しくする	教室外でも話しやすく親しみやすさを感じる
9	進学や就職などの知識が豊富である	教室外や課外でも学習者と交わることが多い
10	習得が困難なことと容易なことをよく知っている	教室内において学習者に規律を守らせる

英米語学科の学生がノンネイティブ教員に求める資質・能力として、「絵教材や視聴覚教材を積極的に用いる」ことや「教科書に沿って授業を進める」や「コミュニケーション重視の教授法」があるが、既習言語の教員としての専門性が求められる。

試験や進学などについての知識も、まさに学習者としての経験知に拠るものであり、その経験から「習得が困難なことと容易なことを」を熟知している。

またネイティブ教員には、「外国語としての英語教授法」に精通していることが求められ、ネイティブゆえ、学習者の発音や文法上の間違いを即座に訂正できる。

教室内外では、話しやすく親しみやすく、学習者との英語によるコミュニケーションを可能にしてくれる。

## おわりに

ネイティブ／ノンネイティブ教員に求められる資質・能力として、中国語学科と英米語学科の学生が求めるものとして考えてきた。

本研究の立ち位置は、超言語的な観点から、外国語教育一般に共通する概念を抽出することであった。中国語や英語、フランス語といった個別言語を問わず、外国語教員として求められる資質や能力には共通性があることを仮説として論を進めてきた。

ノンネイティブ教員には、自らが学習者であったことから、学習者と価値観や文化を共有し、習得が困難なことと容易なことを熟知している。つまり学習者にとっては、ロールモデルとして、教員からの授業やアドバイスを享受する。

一方でネイティブ教員には、目標言語でのコミュニケーションを可能にしてくれる役割が求められる。ネイティブであるがゆえ、カルチャーモデルとして、目標文化の伝授者・紹介者となる。

中国語は、学習者にとって初習言語、英語は既習言語であるため、ネイティブ英語教員には、より強く学習者との英語によるコミュニケーションや授業技能が求められるであろう。

このような資質や能力を備えたネイティブ／ノンネイティブ教員の連携・協働により、「優れた外国語授業」が創出されるものと考えられる。

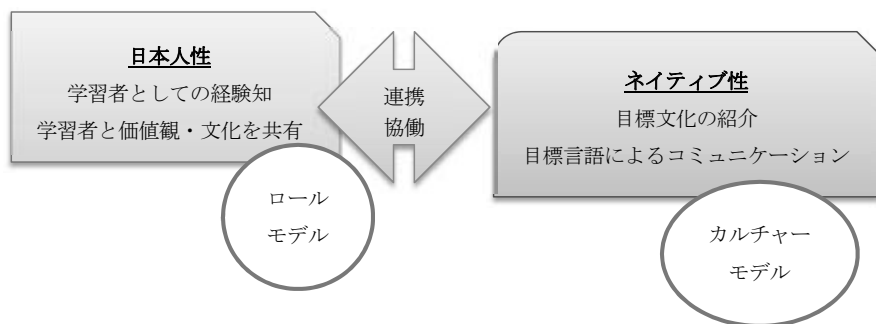


図5 優れた外国語授業創出のモデル

## 参考文献

Wragg, E. C. (1970) "Interaction Analysis in the Foreign Language Classroom", *The Modern Language Journal* 54.

阿部洋子・横山紀子 (1995) 「海外日本語長期研修の課題：外国人日本語教師の利点を生かした教授法を求めて」『日本語国際センター紀要』第1号，国際交流基金日本語国際センター，pp. 54-71.

石井恵理子 (2006) 「非母語話者教師の役割」『日本語教育学』第15巻2号，pp. 87-94.

大藪加奈 (2007) 「英語で教える英語の授業」：非母語話者教員をとりまく状況分析と理論的枠組



- み」Forum on Language Linguistics, Volume 1, pp. 26-35.
- 田中里奈 (2013) 「日本語教育における『ネイティブ』／『ノンネイティブ』概念 — 言語学研究および言語教育における関連文献のレビューから —」『言語文化教育研究』11, 早稲田大学日本語教育センター言語文化教育研究会, pp. 93-111.
- 中川良雄 (2010) 「中国の日本語学習者が考える『いい授業』」『研究論叢』第75号, 京都外国語大学, pp. 143-157.
- (2011a) 「中国・台湾・香港の日本語学習者が考える『いい授業』」『研究論叢』第76号, 京都外国語大学, pp. 271-290.
- (2011b), 「教室文化の多様化に対応した『いい授業』 — 中国と韓国の学習者が考える『いい授業』」『無差』第18号, 京都外国語大学日本語学科, pp. 3-10.
- (2011c) 「教室文化から見た『いい授業』観 — オーストラリアの日本語学習者が考える『いい授業』 —」『研究論叢』第77号, 京都外国語大学, pp. 149-159.
- (2012a) 「日本語学習者の教室文化と『いい授業』観 — 中国・台湾・香港・韓国の日本語学習者が考える『いい授業』 —」『教室文化の多様化に適応した日本語教員の養成をめぐる学際的研究』(平成21年度～平成23年度京都外国語大学学内共同研究研究成果報告書, 研究代表者: 中川良雄), 京都外国語大学, pp. 1-10.
- (2012b) 「中国の日本語教員が考える『いい授業』」, 『研究論叢』第78号, 京都外国語大学, pp. 224-236.
- (2012c) 「タイの日本語学習者が考える『いい授業』 — 中国の日本語学習者との対比から —」『研究論叢』第79号, 京都外国語大学, pp. 239-249.
- (2013) 「日本語教育実習生の『いい授業』観の認知変容 — 京都外国語大学留学生別科での教壇実習から —」『無差』第20号, 京都外国語大学日本語学科, pp. 1-14.
- (2014) 「教室文化と『いい授業』『いい先生』 — 中国大陸・アイ湾地区・香港地区の学習者が考える『いい授業』 —」『中国日語教学文集之10 中日跨文化交際研究 異文化理解につながる日本語教育・日本学研究』大連理工大学出版社, pp. 488-496.
- 中川良雄・天満理恵・上野山愛弥・安立友野 (2011), 「教室文化の多様化と『いい授業』観 — オーストラリアと中国の大学生が考える『いい授業』 —」『日本語教育方法研究会誌』Vok. 18, No. 1, 日本語教育方法研究会, pp. 66-67.
- 中川良雄・長濱拓磨・石井香織 (2011) 「教室文化の多様化と『いい授業』観 — 韓国の日本語学習者が考える『いい授業』」『日本語教育』第55号, 韓国日本語教育学会, pp. 13-23.
- 中川良雄・長濱拓磨 (2012) 「日本語教育実習生の『いい授業』観に関する認知・変容 — 韓国での日本語教育実習から —」(平成21年度～平成23年度 京都外国語大学学内共同研究研究成果報告書, 研究代表者: 中川良雄), 京都外国語大学, pp. 11-21.
- 中川良雄・スィラダー プンサーム (2012) 「タイの日本語学習者が考える『いい授業』」『日本語教育方法研究会誌』vol. 19, No. 1, 日本語教育方法研究会, pp. 60-61.
- 縫部議憲・渡邊倫子 (2006) 「学習者が求める日本語教師の行動特性の構成概念」『日本語教員養成における実戦能力の育成と教育実習の理念に関する調査研究』(平成16年度～平成17年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果報告書, 研究代表者: 中川よ雄), pp. 94-105.
- 平畑奈美 (2007) 「海外で活動する日本人日本語教師に望まれる資質 — グラウンデッド・セオリーによる分析から —」『早稲田大学日本語教育研究』第10号, 早稲田大学, pp. 31-44.
- (2008) 「アジアにおける母語話者日本語教師の新たな枠割 — 母語話者性と日本人性の視点から —」『世界の日本語教育』18, pp. 121-139.

## 【付表 アンケート・データ】

	中国語学科		英米語学科	
	NNT	NT	NNT	NT
1 絵教材や視聴覚教材など、さまざまな教材を多く用いる	2.94	3.04	2.95	3.18
2 外国語としての日本語教授法に精通している	3.23	3.2	3.41	2.84
3 学習者からの質問に即座に答えられる	3.27	3.34	3.37	3.47
4 学習者に日本語で話すことを促す	3.04	3.31	3.16	3.49
5 学習者の発音上の間違いを適切に直せる	3.54	3.53	3.65	3.72
6 学習者の文法上の間違いを適切に訂正する	3.48	3.5	3.68	3.79
7 教科書に沿って文法を重点的に教える	3.14	2.95	2.91	2.65
8 教室外でも話しやすく親しみやすさを感じる	3.41	3.48	3.58	3.69
9 教室外や課外でも学習者と交わることが多い	3.51	3.32	3.16	3.46
10 教室内において学習者に規律を守らせる	3.37	3.01	3	2.98
11 教室を和やかでくつろいだ雰囲気にする	3.09	3.47	3.28	3.59
12 教師として威厳のある態度で学習者に接する	2.7	2.84	3.64	2.68
13 コミュニケーション重視の練習をたくさん取り入れる	3.19	3.44	3.33	3.68
14 コンピュータ教材を用いて授業を進める	2.57	2.57	2.28	2.27
15 試験（JLPT など）についての知識が豊富である	3.35	2.85	3.12	2.46
16 修士またはそれ以上の学位を持っている	2.76	2.71	2.47	2.46
17 習得が困難なことと容易なことをよく知っている	3.37	3.16	3.33	3.32
18 授業を楽しくする	3.48	3.69	3.62	3.43
19 宿題を適度に出し、きちんとチェックする	2.97	2.97	2.97	2.98
20 進学や就職などの知識が豊富である	3.28	2.95	3.45	2.81
21 すべての学習者に公平である	3.51	3.54	3.71	3.77
22 正しい発音やアクセントで流暢に話せる	3.55	3.62	3.68	3.46
23 ○○語以外のことにも相談にのってくれる	3.22	3.06	3.2	3.19
24 ○○語教育に関する資格を持っている	3.08	3.01	2.88	2.68
25 ○○語だけで授業をする	2.61	3.5	2.51	3.33
26 ○○語と学習者の母語を比較しながら教える	3.37	3.37	3.21	2.91
27 ○○語の教授経験が長い	2.9	3.32	2.65	2.85
28 ○○人の考え方や思考方法を理解している	3.3	3.76	3.32	3.67
29 ○○の歌やドラマ・アニメなどを紹介してくれる	3.21	3.45	3.38	3.55
30 日本の歴史や文化・習慣などについて深い知識がある	3.37	3.77	3.27	3.56
31 ○○文化を授業の中で体験させてくれる	3.17	3.59	3.21	3.57
32 話すこと・聞くことを中心に教える	3.32	3.49	3.25	3.57
33 文法や語彙を学習者の母語で説明する	3.26	3.06	3.03	2.81
34 文法や語彙を日本語で説明する	3.32	3.22	3.09	2.51
35 ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる	2.98	3.02	2.97	3.23
36 翻訳や通訳の練習を取り入れる	3.37	3.21	2.85	2.82
37 読むこと・書くことを中心に教える	3.11	3.04	2.72	2.27
38 学習者だった時の経験を活かして教える	3.39		3.39	
39 ○○への留学経験がある	3		2.8	
40 ○○語試験に合格している	2.89		2.67	

※ NNT = ノンネイティブ教員, NT = ネイティブ教員